

集 特
睡 眠

睡眠特集号に序す

東京大学教授
秋元波留夫

これから、時実、大熊、古閑、佐野 4 人の演者の方々、および吉井、山本、朝比奈、森の 4 人の討論者をお願いして、主として脳波の見地からみた睡眠の問題を論じていただくことになっております。演者および討論者の方々は、それぞれもつとも得意とする専門的研究のお話をされ、おそらくこの問題のこんにちの知見のエッセンスが明らかにされると思いますので、司会者として、蛇足を加える必要はありませんが、序論のようなことを簡単にのべさせていただきます。

睡眠という生物に共通する生命の周期現象は、古来多く研究されてきましたが、脳波の出現によつて、その研究は新しい時代を迎えたことは申すまでもありません。たしかに脳波、すなわち、脳の電気現象を示標とする睡眠研究は、睡眠の機序の解明に重要な寄与をもたらし、憶測や概説におおわれていた睡眠の本態に接近する途をひらきました。これまでにえられました成果のおもなものは、第 1 に睡眠に対応する脳の活動水準の変化の様式および法則が究明されたことであります。これによつて臨床面では、睡眠と睡眠様現象、さらには病的睡眠との鑑別が可能となり、これによつて睡眠障害の客観的研究の可能性が生まれたのであります。

第 2 は、睡眠の神経機序の解明が、覚醒系の研究の進歩として進んできたことであります。睡眠と覚醒との調節機序についての多くの実験的研究は、この 10 年来の神経生理学的研究の 1 つの中心でありました。

しかし、睡眠の脳波的研究は、臨床的な成果についても、実験的な成果についても、まだ多くの不明な間隙を残しており、とくに両者の連関には Diskrepanz が存在しており、むしろ問題は今後の研究に残されております。これからの演者のお話で何が問題として残されているかが明らかにされるであらうがこれらの問題について、会員の皆様から活発なご討論をお願いしたいと思います。